



埼玉医科大学医学部 同窓会会報

第79号

令和6年9月



巻 頭 言

副会長 田 中 政 彦



ここ2年ほどの春は3月早々に暖かい日々が多く、今年の花の咲くのも全国的に早くなりました。4月中旬以降は夏日が続き、5月の半ば辺りから真夏日もあり花々も通年の10日以上も前に咲き始め、それに引き続いて木々の目覚めも早く、我々の視界を通して心を和ませるものでした。しかしながら植物の開花のタイミングがずれてしまい受粉期を逸してしまった植物もあるようです。アヤメも6月中旬以降に咲き始め6月末以降に最盛期を迎えそうです。花や木々は何とか環境変化に対応しています。

同窓生の多くの方々は実臨床に従事されていると思いますが、この6月1日はポストコロナの今年度診療報酬改定施行日であります。今回は医療・介護同時改定であり、小泉政権時のマイナス改定よりも更に明確なマイナス改定であると体感しつつあると思います。そして最低賃金法の改定や診療報酬制度に盛り込まれた処遇改善等加算による人件費の上昇が、診療施設の経営を困難にしていると思われまます。今後はどのように経営してゆこうかと頭を悩ませている施設長も多いことと推察します。そうではありますが、今回の改定は予測された2025年問題即ち高齢化問題の後を見据えた後期高齢者への対応であったのではないかと、その中で若い人たちへの処遇改善への対応も十分に検討した結果であったのではないかと考えられます。

お互いに手を携えて前に進んでゆかなくてはなりません。あらゆる困難があろうとも花や木々のようにしっかりと対応をして、牛歩でもいいから前に進む必要があります。

かつては成人病と言われ、それからメタボリックシンドロームと言われ、そして生活習慣病と言われている多くの国民が罹患している高血圧症、糖尿病、脂質異常症への早期介入・指導が我が国の平均余命や健康寿命を延伸していることは明確な事実であり、同時に遺伝子解析、内視鏡画像、CTやMRIの画像診断のAI化による進歩や手術手技のロボット化などにより癌患者の予後が大きく改善していることが更にそのベクトルを押し上げていると考えられます。100歳以上の高齢者は10万人を超える勢いです。将にいまわれわれは高度高齢化の中にいます。これからは今までに経験したことのない高度高齢化社会の中でただ延命すれば良いということではなく、一人一人の患者さんに対峙した個別化した医療が求められていると思います。多少認知機能の低下した患者さんにも双方向性に十分に説明責任を果たして、同意していただく医療・介護が求められています。今回の改定は医療従事者のAccountabilityをより明確にした改定であったのではないのでしょうか。